



# 地球観測衛星データを用いた SDG15.4.2(山地植生被覆指数) の試算について（中間報告） ドラフト



2020年11月25日  
宇宙航空研究開発機構  
衛星利用運用センター  
特任担当役 石田 中

1. SDG15.4.2のメタデータ
  - ・ Kapos山地分類データ
  - ・ 欧州宇宙機関 気候変動イニシャチブ (ESA-CCI)土地被覆データ
  - ・ 指標算出方法
2. メタデータに基づくSDG15.4.2試算結果の見直し
3. JAXA高解像度土地利用土地被覆図データを用いたSDG15.4.2試算結果
  - 30m/50m分解能データによる試算の追加
4. 土地被覆分類の精度検証

(以下、ご参考)

- 国土地理院 標高データ (10m分解能) を用いた山地分類とKapos山地分類の比較
  - Kapos山地分類の局所起伏幅の検討
- SDG15.4.2算出に利用可能なデータ

## SDGターゲット15.4とSDG指標15.4.2

SDGターゲット15.4は、生物多様性を含む山地における生態系の保全を目的に、指標15.4.2として山地植生被覆指数（MGCI： Mountain Green Cover Index）を設定している。

15.4： 2030年までに、持続可能な開発に必須の便益を提供する能力を強化するため、生物多様性を含む山地の生態系の保全を確実に行う。

15.4.2： 山地植生被覆指数

*15.4: By 2030, ensure the conservation of mountain ecosystems, including their biodiversity, in order to enhance their capacity to provide benefits that are essential for sustainable development*

*15.4.2: Mountain Green Cover Index*

最新のメタデータ(2020年8月)の方法論に従い、SDG15.4.2を試算した。  
国連世界食糧農業機関(FAO)は、2000年、2010年、2015年及び2018年の山地植生被覆指数を算出し、各国政府に確認を要請している。

### 1. 使用データ

メタデータに従い、以下のデータを使用した。

#### ① 山地分類データ (Kapos等、2000年)

FAO Mountain PartnershipのHPにあるDOWNLOAD DATA SETS GIS raster Mountain area  
<http://www.fao.org/mountain-partnership/our-work/focusareas/foodsecurity/en/>

#### ② 土地被覆分類データ

欧州宇宙機関 気候変動イニシャチブ (ESA CCI) 土地被覆分類データ  
(300m分解能、2000、2010、2015及び2018年)

<https://cds.climate.copernicus.eu/cdsapp#!/dataset/satellite-land-cover?tab=form>

#### ③ 国行政区分データ

FAO全球行政区分レイヤ (GAUL)

<https://data.europa.eu/euodp/data/dataset/jrc-10112-10004>

### 2. 算出方法

$$\text{山地の植生被覆の画素数} / \text{山地の画素数} \times 100$$

### 3. 使用ツール 無償、公開のQGISを使用

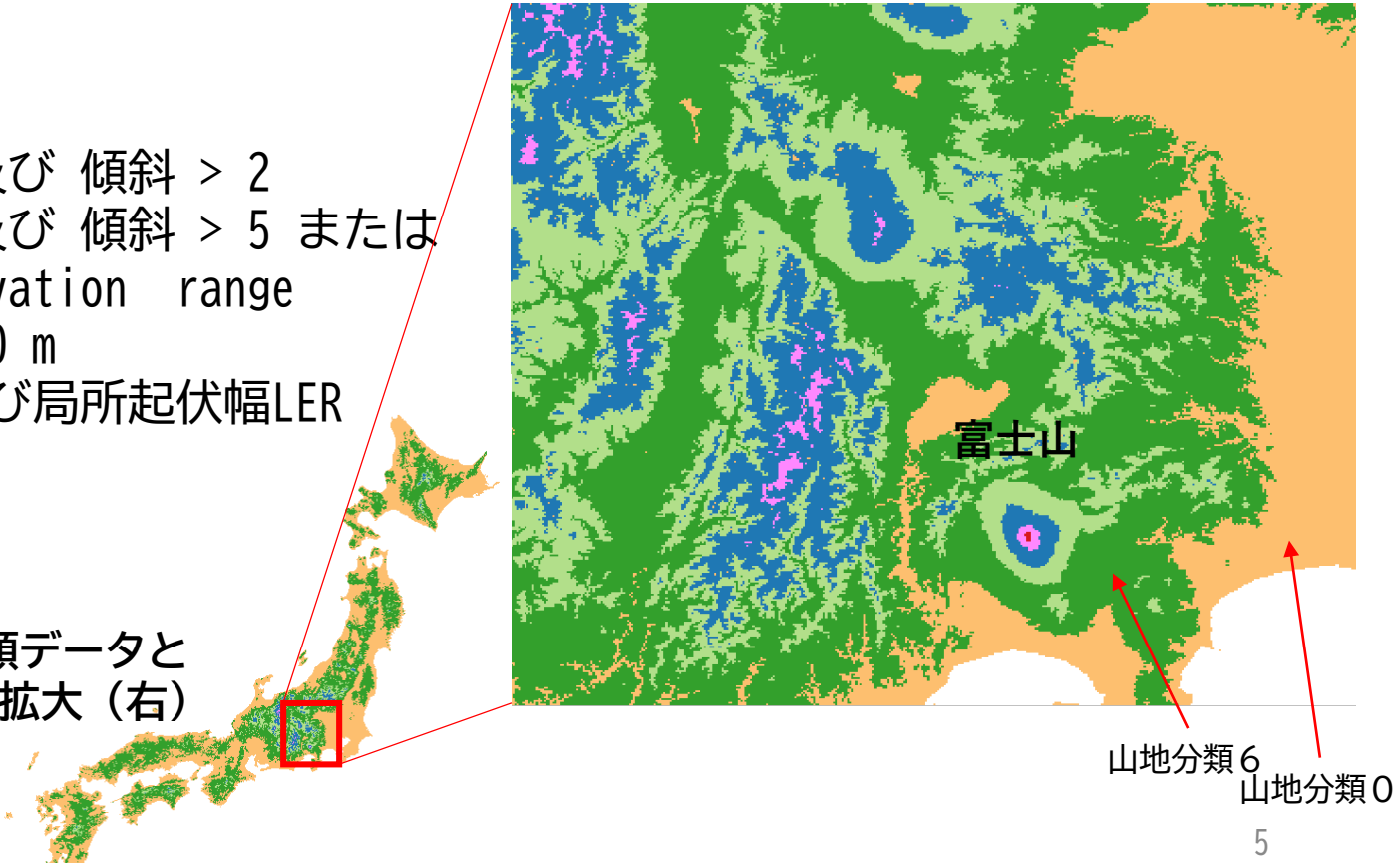
# SDG15.4.2 山地植生被覆指数

## Kapos等山地分類データ

Kapos等(2000)は、山地を標高、傾斜及び局所起伏幅で山地を6分類している。Kapos山地分類データは、FAOのMountain Partnershipのホームページから国別にダウンロードが可能となっている。

- | 山地分類 | 内容   |
|------|--|
| 1    | 標高 > 4,500 m   |
| 2    | 標高 3,500-4,500 m   |
| 3    | 標高 2,500-3,500 m   |
| 4    | 標高 1,500-2,500 m 及び 傾斜 > 2   |
| 5    | 標高 1,000-1,500 m 及び 傾斜 > 5 または<br>局所起伏幅local elevation range<br>(LER 7 Km半径) > 300 m |
| 6    | 高度 300-1,000 m 及び局所起伏幅LER<br>(7 km半径) > 300 m  |
| 0    | 山地以外   |

Kapos山地分類データと  
富士山周辺の拡大 (右)

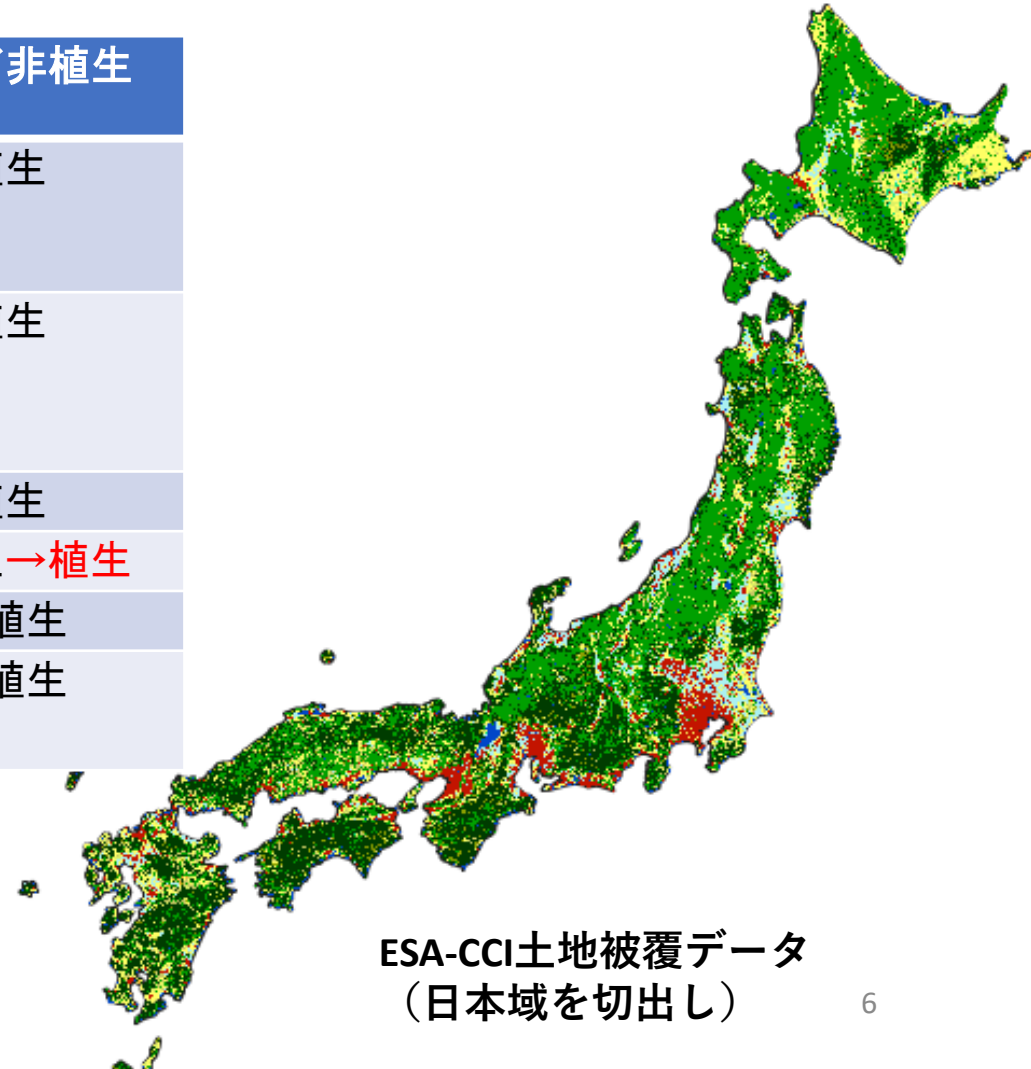


# SDG15.4.2 山地植生被覆指数

## ESA-CCI土地被覆データ

欧州宇宙機関気候変動イニシャチブ (ESA-CCI) データ (300m分解能) を使用して、ESA-CCI分類 (22分類) をIPCC分類に適合させて植生エリアと非植生エリアに識別する。**前回WG後、FAOは、湿地を植生としてMGCIを算出していることが判明した。**

ESA CCI 分類 (データ値)	IPCC 分類	植生 / 非植生
50, 60, 61, 62, 70, 71, 72, 80, 81, 82, 90, 100	森林	植生
110, 120, 121, 122, 130, 140, 150, 151, 152, 153	草地	植生
10, 11, 12, 20, 30, 40	農作地	植生
160, 170, 180	湿地	非植生 → 植生
190	市街地	非植生
200, 201, 202, 210, 220	その他	非植生



ESA-CCI土地被覆データ  
(日本域を切出し)

### 処理の流れ

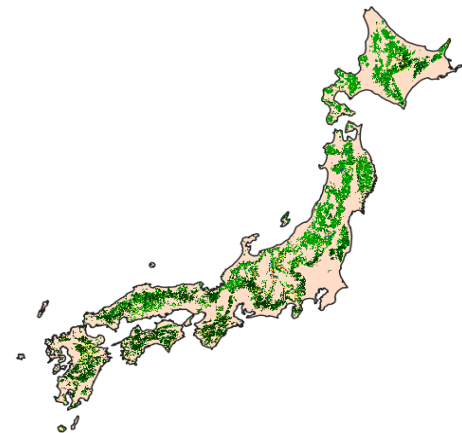
- ① FAO日本行政区分データにより、ESA-CCI(全球)土地被覆分類データから日本域のデータを切り出し
- ② Kapos山地分類データから、QGISラスター計算機により各山地分類(1~6)のマスク画像を作成
- ③ 土地被覆分類データと各山地分類マスクをかけ算し、山地分類(1~6)毎に土地被覆分類データを作成
- ④ ポリゴン変換の後、土地被覆分類毎の面積を算出(QGISのGroupStats機能を使用)
- ⑤ IPCC分類に従い、植生被覆の面積を合計し、山地面積に対する植生被覆面積の割合を算出する。



ESA-CCI土地被覆分類



Kapos山地分類6マスク



山地分類6の土地被覆

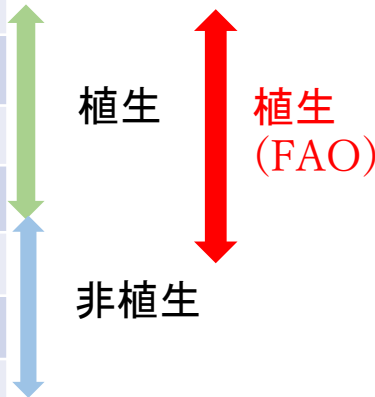
# SDG15.4.2 山地植生被覆指数

## 2015年SDG15.4.2試算結果



Kapos山地分類毎(1-6)の土地被覆割合と山地植生被覆指数(MGCI)の試算結果を以下に示す。  
**湿地を植生に加えるとFAO推計結果とほぼ一致した。**

IPCC分類	Kapos 山地分類					
	1	2	3	4	5	6
森林	0	17.39	57.85	89.28	94.12	90.88
農作地	0	78.26	40.74	8.76	4.74	8.05
草地	0	0	0.79	1.21	0.44	0.11
湿地	0	0	0.3	0.47	0.47	0.08
市街地	0	0	0	0	0.02	0.52
その他	0	4.34	0.3	0.26	0.18	0.34
MGCI	0	95.65	99.38→99.42	99.26→99.73	99.30→99.77	99.05→99.13
MGCI all	99.07→99.23					



(参考)FAOの推計結果

IPCC class	Year 2015 Kapos mountain class					
	1	2	3	4	5	6
Forest	0.00	20.00	58.89	89.37	94.16	91.10
Cropland	0.00	66.67	33.57	6.34	3.01	4.94
Grassland	0.00	0.00	6.95	3.57	2.03	3.01
Wetland	0.00	0.00	0.35	0.40	0.48	0.08
Settlement	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.51
Other land	0.00	13.33	0.24	0.32	0.28	0.36
MGCI	0.00	86.67	99.76	99.68	99.69	99.13
MGCI all	99.23					



# SDG15.4.2 山地植生被覆指数

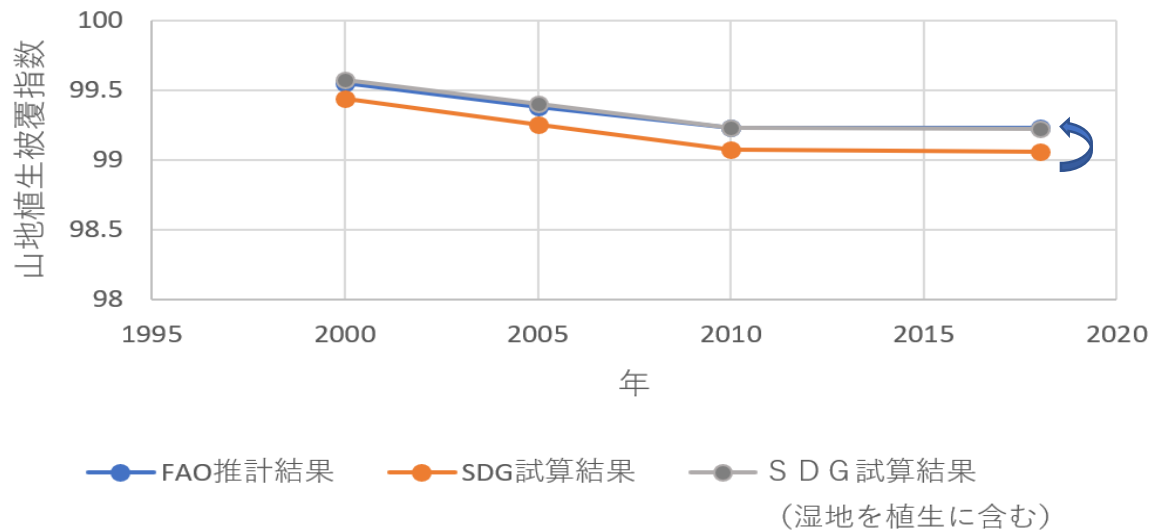


## ESA-CCI土地被覆データを用いたSDG15.4.2試算結果

メタデータに従い、Kapos山地分類データ及びESA-CCI土地被覆データを用いてSDG15.4.2を試算した結果（2000、2010、2015および2018年）を以下に示す。FAOの推計結果と同様の結果を得た。さらに湿地を植生に含めるとほぼ一致した。

年	2000年	2010年	2015年	2018年
SDG15.4.2 試算結果	99.44 %	99.25 %	99.07 %	99.06 %
同上(湿地を 植生に含む)	99.57%	99.40%	99.23%	99.22%
(参考) FAO推計結果	99.55 %	99.38 %	99.23 %	99.23 %

日本の山地植生被覆指数のトレンド



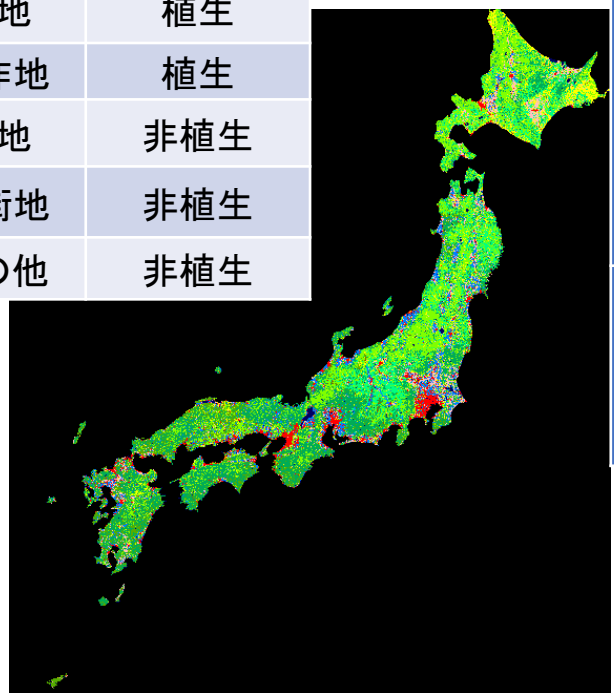
# SDG15.4.2 山地植生被覆指数



## JAXA高解像度土地利用土地被覆データを使用したSDG15.4.2試算結果

メタデータは、各国独自の土地被覆分類データがある場合はその利用を推奨している。  
 JAXA高解像度土地利用土地被覆データ(10分類、250m解像度版(オリジナルは10m/30m分解能)、[https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/lulc\\_jindex.htm](https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/lulc_jindex.htm))を使用してSDG15.4.2(2006~2011年、2014~2016年)を試算した。**さらに、50m(2006-2011年)/30m(2014-2016年)解像度版データを使用した。**

JAXA分類 (データ値)	IPCC 分類	植生/ 非植生
6, 7, 8, 9	森林	植生
5	草地	植生
3, 4	農作地	植生
該当なし	湿地	非植生
2	市街地	非植生
1, 10	その他	非植生



年	データ 分解能	2006-2011年	2014-2016年
SDG15.4.2 試算結果	250m	98.57 %	98.65 %
	100m	98.37%	98.67%
	<b>50/30m</b>	<b>98.23%</b>	<b>98.61%</b>
(参考) FAO推計 結果	300m	(2010年) 99.38 %	(2015年) 99.23 %

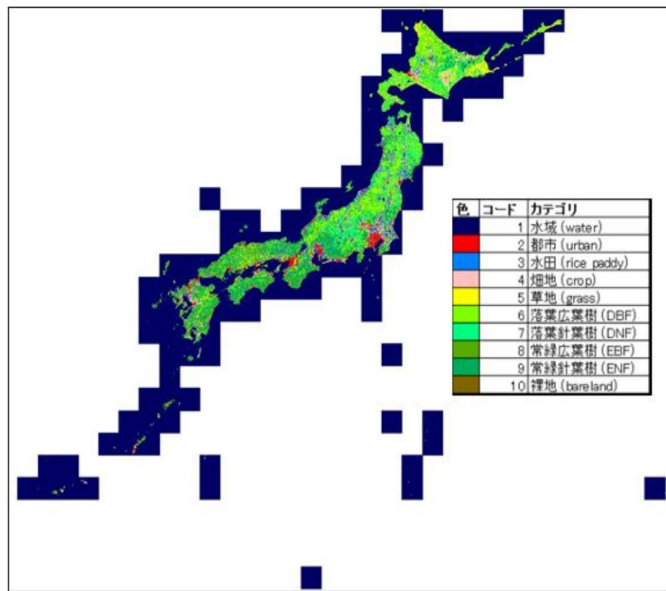
JAXA高解像度土地利用土地被覆図データ  
(10分類、250m解像度版、2014-2016年)

# SDG15.4.2 山地植生被覆指数 土地被覆分類の精度検証



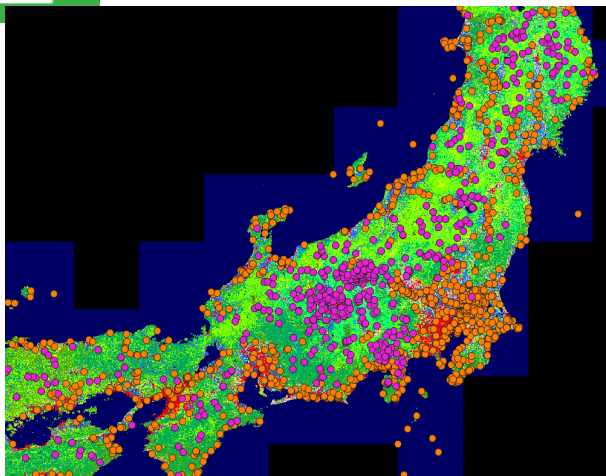
JAXAは、教師情報とは独立の約3,000箇所の検証情報を用いて、高解像度土地利用土地被覆図データ (v18.03, 2014-2016, 30m分解能) の精度検証を行った結果、10カテゴリで全体精度81.6%を得ている。V16.09, 2006-2011, 10m分解能データについては、約1400点箇所の検証情報を用いて、全体精度78.0%。  
[https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/lulc\\_jindex\\_v1803.htm](https://www.eorc.jaxa.jp/ALOS/lulc/lulc_jindex_v1803.htm)

表1 コンフュージョンマトリクス (v18.03)



		Validation											User's accuracy (%)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	TOTAL	
Classified	1	276	1	1	0	0	0	0	1	3	0	282	97.9
	2	3	247	2	7	1	0	0	0	0	35	295	83.7
	3	0	5	284	5	1	1	1	0	0	1	298	95.3
	4	1	3	31	218	26	4	3	1	1	6	294	74.1
	5	0	2	6	14	240	14	0	8	0	5	289	83.0
	6	0	0	0	0	9	236	29	13	11	0	298	79.2
	7	0	0	0	1	4	24	252	4	14	0	299	78.6
	8	0	1	0	1	2	15	7	207	49	0	282	73.4
	9	0	0	0	0	1	6	4	24	264	0	299	88.3
	10	15	43	6	14	23	8	3	6	7	161	286	56.3
TOTAL		295	302	330	260	307	308	299	264	349	208	2,922	---
Producer's accuracy (%)		93.6	81.8	86.1	83.8	78.2	76.6	84.3	78.4	75.6	77.4	---	Overall accuracy: 81.6%

# SDG15.4.2 山地植生被覆指数 土地被覆分類の精度検証



今回、山地の検証箇所を抽出して、山地の土地被覆分類のコンフュージョンマトリックスを作成した。

2014-2016年、250m解像度版で全体精度が66.1%、100m解像度版で73.4%を得た。

2014-2016年高解像度土地被覆図データ (ver18.03)の検証箇所  
山地の検証箇所 (紫) と非山地の検証箇所 (オレンジ色) を含む

表 2014-2016年、250m土地被覆図データ (山地) のコンフュージョンマトリックス

		Validation										Total	User's accuracy (%)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
Classified	1	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	100.0
	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	14	50.0
	3	2	2	6	2	1	0	0	0	0	2	15	40.0
	4	0	1	2	20	1	1	0	0	1	1	27	74.1
	5	0	0	0	5	51	7	6	1	0	3	73	69.9
	6	4	0	0	1	12	116	31	5	10	1	180	64.4
	7	0	0	1	5	4	37	168	0	6	8	229	73.4
	8	0	0	0	1	0	6	1	8	17	0	33	24.2
	9	1	0	0	0	3	31	16	17	95	2	165	57.6
	10	0	0	1	0	1	2	0	0	0	29	33	87.9
	Total	36	10	10	34	73	200	222	31	129	53	798	
Producer's accuracy (%)		80.6	70.0	60.0	58.8	69.9	58.0	75.7	25.8	73.6	54.7		Overall accuracy: 66.1

- SDG15.4.2の算出は、使用するデータ(Kapos山地分類データ及び欧州宇宙機関気候変動イニシャチブ(ESA-CCI)土地被覆データ)がメタデータに指定されており、QGISを使用して容易に算出できる。メタデータに基づき試算した結果は、FAO推計結果にほぼ等しい。
- その後、FAOは湿地を植生に含めて推計していることが明らかになり、湿地を含めて算出するとFAO推計結果にほぼ一致した。
- JAXAの高分解能土地利用土地被覆データ(オリジナル10m解像度(2006-2011年)/30m解像度(2014-2016年)のデータを250m/100m分解能にリサンプリングしたもの)を使用して算出したところ、同様の結果が得られた。
- 今回、50m解像度版(2006-2011年)及び30m解像度版(2014-2016年)を使用して山地植生被覆指数を算出し、同等の結果を得た。
- 教師情報とは独立の検証情報を用いて、2014-2016年、250m及び100m解像度版のコンフュージョンマトリクスを作成した。データの解像度が上がると土地被覆の分類精度も向上することが期待される。

- JAXA高解像度土地利用土地被覆データ2006-2011年、250m及び100m解像度版のコンフュージョンマトリックスの作成
- Kapos山地分類の局所起伏幅算出アルゴリズム(FAOから提供されたArc-GISスクリプトを含む) の検討
- 国土地理院10m標高データを用いたKapos山地分類データの作成とそれに基づく山地植生被覆指数の算出
- 面積推定におけるUTM座標系の適用区域 (第52帯～第54帯) 毎の計算の検討

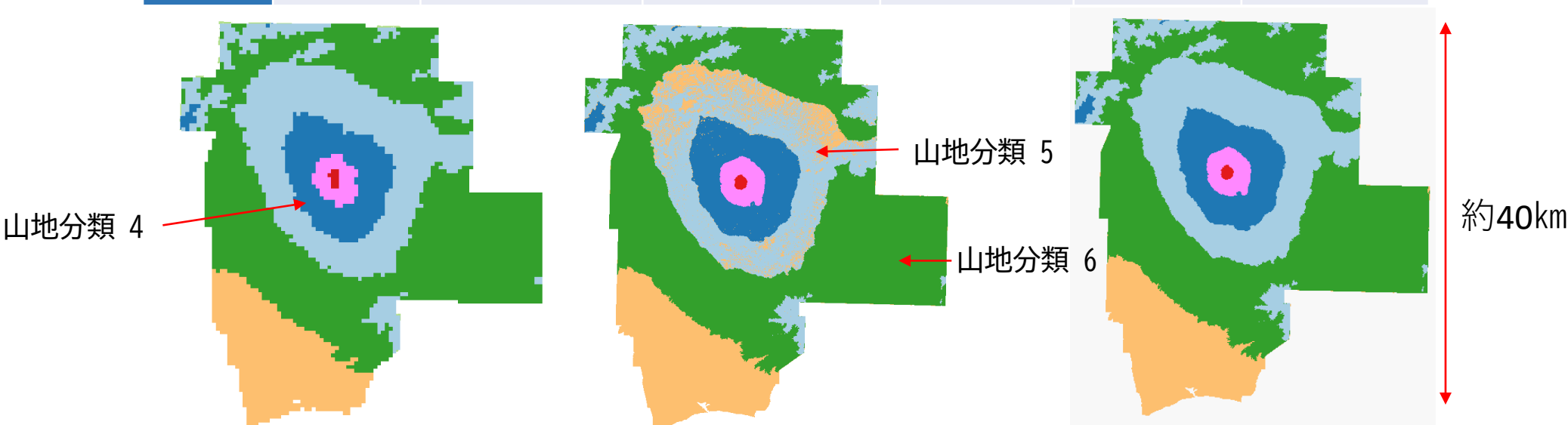
# (参考) SDG15.4.2 山地植生被覆指数

国土地理院 標高データ (10m分解能) を用いた山地分類とKapos山地分類との比較



富士山周辺地域について、Kapos山地分類 (左)、Kapos等 (2000) の定義に沿って標高と傾斜の条件で国土地理院標高データ (10m分解能) により分類した結果 (中央)、さらに標高のみの条件で国土地理院標高データにより分類した結果 (右) を示す。

山地分類	Kapos山地分類データ		国土地理院 標高データ10m		同左 (ただし標高のみで分類)	
	面積(km <sup>2</sup> )	面積比率(%)	面積	面積比率	面積	面積比率
0	156.43	13.43	232.83	19.99	162.75	13.99
2	1.94	0.17	1.79	0.15	1.79	0.15
3	18.91	1.62	19.85	1.70	19.85	1.71
4	103.40	8.88	101.40	8.71	101.71	8.74
5	332.65	28.56	253.23	21.74	322.05	27.68
6	551.29	47.34	555.52	47.70	555.47	47.74
	1164.62	100.00	1164.62	100.00	1163.61	100.00

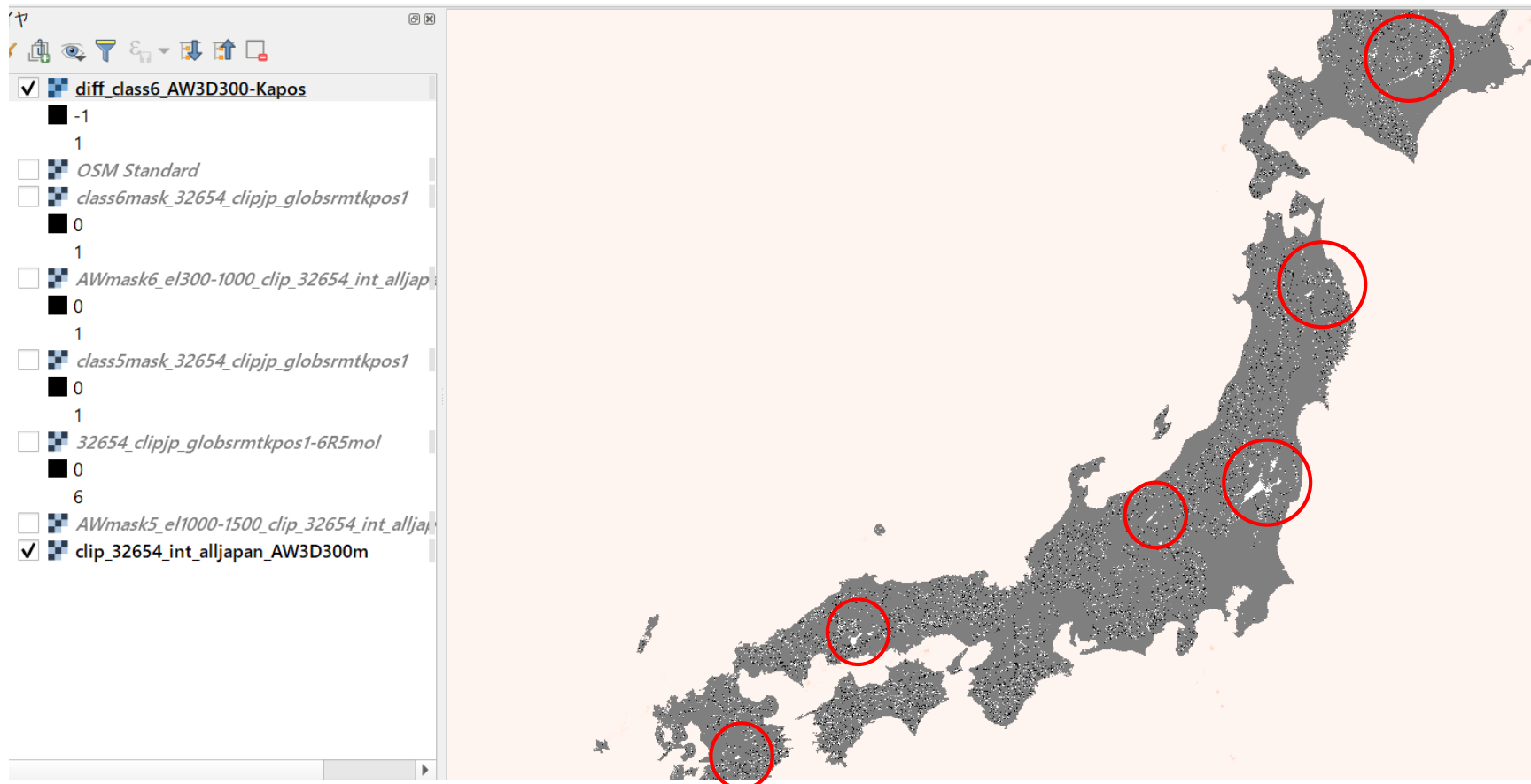


富士山周辺地域のKapos山地分類画像 (左) 国土地理院標高データ (標高と傾斜) による山地分類画像 (中央) 同左 (標高データのみで分類)

# (参考) SDG15.4.2 山地植生被覆指数

## Kapos山地分類の局所起伏幅の条件

ALOS全球数値地表モデル(AW3D)データ(300m解像度版)の標高300-1000mのマスキデータからKapos山地分類6マスキデータを差し引き、局所起伏幅の条件(7km半径で高度差が300m以上)に合致しない地域(○中の白い部分)を識別した。標高300-1000mであっても各地に局所起伏幅の条件に合致しない地域(平地)が存在することが確認された。





## 土地被覆データ

	対象域	対象期間	分解能	分類数	使用衛星データ
ESA-CCI 土地被覆 データ	全球	1992 - 2018年 の各年	300m	22	AVHRR, SPOT, PROBA-V, MERIS, Sentinel-3
JAXA高解像 度土地利用 土地被覆図 データ	日本域	2014 - 2016年 (メインは2015年)	30m, 100m, 250m, 500m	10	Landsat-8/OLI, ALOS-2/PALSAR-2
		2006 - 2011年 (メインは2010年)	10m, 50m, 100m, 250m, 500m	10	ALOS/AVNIR-2/PRISM, ALOS-2/PALSAR-2
		2018 - 2020年 (メインは2020年, 整備中)	10m, 50m, 100m, 250m, 500m (予定)	10-12	Sentinel-2, Landsat-8/OLI, ALOS-2/PALSAR-2

## 標高データ

	対象域	分解能	標高精度	作成方法
国土地理院 基盤地図情報 標高データ	日本域	10m	5m以内	基本測量
ALOS全球数値地表モデル (AW3D30 DSM)	全球	30m	5m以内	ALOS/PRISM